

国語科学習指導案

横浜市立千秀小学校
指導者 門倉 野里子

単元名・教材名

絵とせりふを工夫して、一年生に伝えよう
～「お手紙」～

- 1、日時・場所 平成27年11月18日（水）5校時 教室、少人数教室
- 2、学年・組 第2学年1組 29名
- 3、指導事項と言語活動

（1）指導事項

- 語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読すること。（読むこと ア）
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を読むこと。（読むこと イ）
- ・文の中における主語と述語との関係に注意すること。（言語活動イーカ）
- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。（読むこと ウ）

（2）言語活動

- 音読発表会をする（言語活動例 イ）
二年生のこの時期は、単純な一斉音読に終始すると、細かい叙述をしっかり追いながら読むよりも、友達の声に合わせて気持ちをこめずに音読してしまう児童が見られるようになる。そのような中で、簡単な動作もつけて演じる音読劇は、新鮮で学習意欲を喚起する言語活動である。
本教材は二人の登場人物が個性豊かであり、また、七割以上が会話文からなる作品である。さらに、場面が「がまくんの家」と「かえるくんの家」の二場面という点からも、音読劇にするのにふさわしいと思い、本言語活動を設定した。
また、一年生に発表することによって、一年生にとって分かりやすく伝えるにはどのような表現をしたらよいのかを子どもたちに考えさせたい。相手意識をもって練習し、音読表現を高めることを目指したい。

4、単元目標

- 場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をしようとする。
- 手紙を書く楽しさを知り、物語の登場人物に言ってあげたいことを手紙に書こうとする。

5、評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
① 自分が感じた物語のおもしろさが伝わるように、音読劇をしようとしている。	② 人物の様子や気持ちを想像し、物語の様子が伝わるように工夫して音読している。	⑤ 手紙のよさに気づいて、自分の思いを手紙に書いている。	⑥ 主語と述語の関係を理解している。

	③登場人物の行動 や出来事から場 面の様子を想像 し、お気に入りの 場面を見つけて いる。 ④自分の音読と友 達の音読を聞き 比べて、感想を深 めている。		
--	--	--	--

6、研究主題とのかかわり

☆栄区情報・視聴覚教育研究会 研究主題

一人ひとりの子どもが、主体的に学びを高めるための情報・視聴覚教育
 ～考える力・表現する力を育む情報教育のあり方～

→ その中でも今年度は、児童の思考を可視化できる手立てとして ICT がどのように
 寄与していけるかについて焦点を当てて研究を進めていく。

<テーマに迫るための手立て>

本学級では、聴覚情報ではなかなか理解できないことでも、文字や図など視覚的な支
 援で安心して学習に取り組める児童が多い。また、自分の考えを整理してまとめたり、
 言葉にして伝えたりする活動が苦手な児童もいる。そのため、日常的に大型テレビで動
 画教材の視聴で理解を助けたり、自分たちの活動場面の動画を見てふり返ったりしてい
 る。

その実績を経て今回は、より児童の思考の可視化に焦点を当て、児童一人ひとりがと
 らえた「お手紙」を、効果的に表現できるようにしていきたいと考える。

そこで、「お手紙」の深い読み取りを、せりふの追加や挿絵の制作を通してさせてい
 きたい。そのために、教科書の挿絵を抜いたもので学習を進めていく。情景や心情を、
 深い読み取りのアウトプットとして、児童の表現ツールの一つとして「タブレット」を
 活用する。「タブレット」と「パソコン」「OHC」の違いは、児童の描いた絵を思いの
 ままに動かせるという点である。後述の指導計画6でグループ練習の方法を学ぶ時間を
 設け、その中で、音読の内容に合わせてアップの位置から徐々にルーズにしていく等、
 絵の見せ方を指導していく。発表の場面では、操作する児童はグループに一人ずつだが、
 グループでの練習の際に皆で触りながら相談させていく。

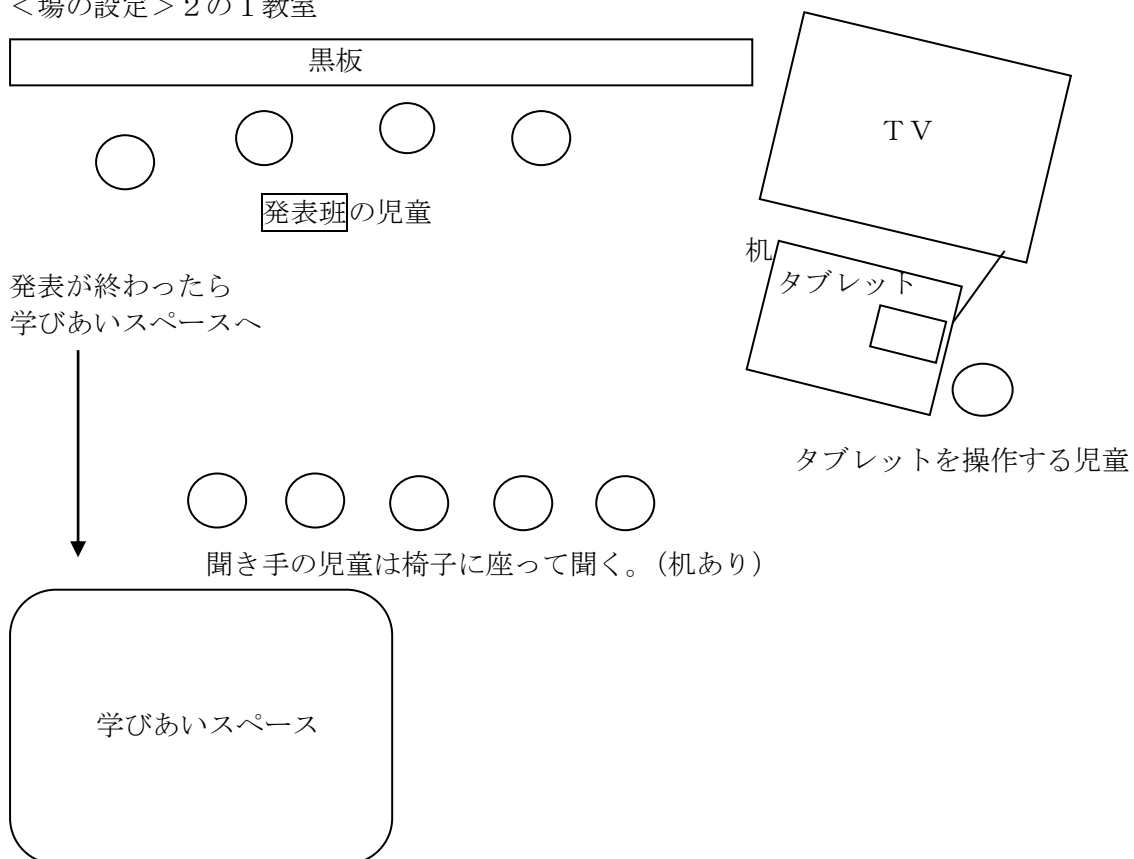
今回の授業を通して、いつもなかなか言葉で自分の思いを表現しきれない児童も、新
 たにせりふや場面の絵を工夫して考えていくことで、さまざまな表現の仕方があること
 が分かり、他教科の学習にも生かしたいと考える。

7、指導と評価の計画（読むこと 12時間）

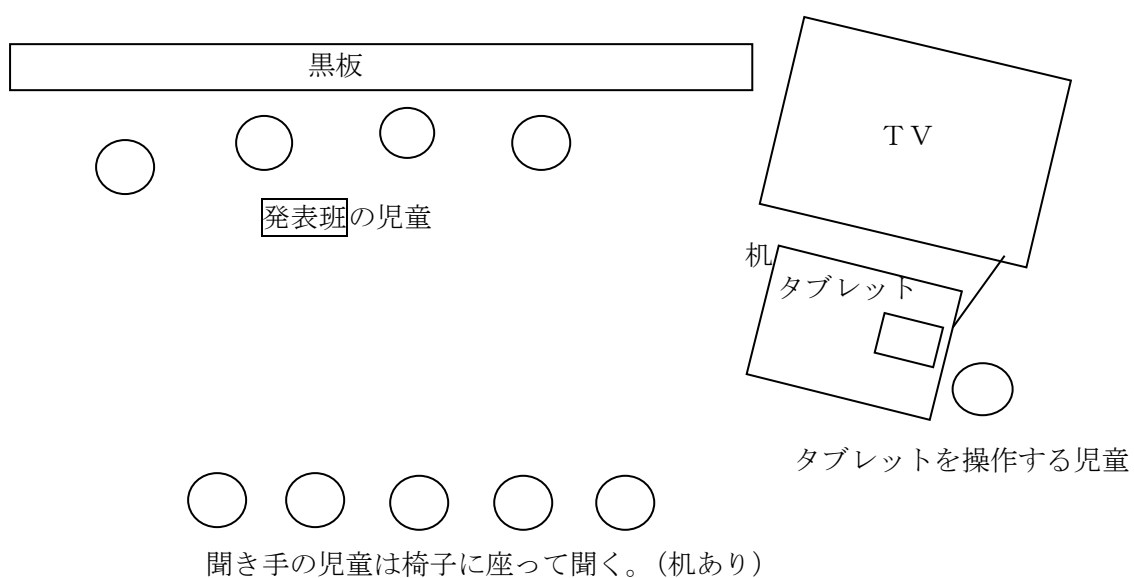
学習活動と内容	□評価規準と○指導の手だて 情報・視聴覚機器（☆）
1、「音読げき発表会をしよう」という学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。 ・単元のめあてを確認する。 ・範読を聞いて感想を発表し合う。 ・みんなで音読をする。	音読劇を行うことに興味をもち、音読の工夫を考えながら学習に取り組もうとしている。① ○範読を聞いた感想について、児童の思いを交流することができるようにする。 ○イラストがないお手紙のプリントを配り、自分だけの本を作る。
2、「お手紙」を読み、内容を整理する。（1・2の場面） ・場所の移り変わりに着目して場面分けをする。 ・「誰が」「何をするのか」「何を言うのか」に気を付け内容を確認める。	場面ごとに人物の行動と会話を整理し、登場人物の行動を読み取っている。⑤ ○二人の会話文を対比させて、気持ちを読み取る。それぞれの気持ちを想像させるようにする。 ○声の出し方、動き以外にも間の取り方などでも表現が変わってくる。複数の児童に読ませることで、音読の工夫を考えていく。
3、「お手紙」を読み、内容を整理する。（3の場面） ・「誰が」「何をするのか」「何を言うのか」に気を付け内容を確認める。	登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像し、お気に入りの場面を見つけている。③ ○読みたい場面と役について、アンケートを取り、班を作る。人数に偏りがある場合は、第2希望を聞いて調整する。
4、音読したい部分を決めて、（グループ決め）音読の工夫を考え、読み方や動き方などをノートやプリントに書き込む。 ・読み方や動き方について書き込む。 ・声の出し方と、動きの二つの視点で考える。	音読したい部分を決め、音読の工夫などを考えている。②④ ○児童の考えた読み方が不十分なときは、本人の考えを尊重しながらも、アドバイスをする。 ☆書き込んだ音読の工夫をOHCで見せ、共有する。
5、自分で想像して、担当箇所の挿絵を紙に描く。 ・A4の紙に鉛筆と色鉛筆で描く。	場面を想像して、挿絵を描いている。① ○がまくんとかえるくんが区別できるように、着ている服装の色や形は指定する。 ○絵が苦手な児童や、表情が考えにくい児童には、がまくんやかえるくんの表情の例を見せて、その中から選ばせる。 ○紙に枠を描いておき、大体の大きさは指定する。 ☆声の出し方、動きに加えてタブレットの使い方を練習の視点に加える。

6、グループでの練習の仕方や、タブレットによる効果的な絵の見せ方を練習する。 ・タブレットを使う時の約束を知る。 ・実際にタブレットを操作しながら、練習をする。 ・練習では、全員がタブレットを操作する。 ・発表の場では、タブレットを操作する児童を二人いるナレーターで分担する。	タブレットの効果的な使い方を考えて、グループで協力して音読劇の練習を行っている。② ○絵をタブレットで写真にとり、タブレットに取り込んでおく。 ○タブレットを二台使い、二つの教室（2の1教室、隣の少人数教室）に分かれて練習をする。 ☆タブレットを用いて、挿絵をアップやルーズにしたり、動かしたりして実際に練習する。
7、グループで音読劇の練習を行い、感想やアドバイスを伝える。 ・1～6班それぞれの班で練習をする。	読み方の工夫に気を付けて、グループで協力して音読劇の練習を行っている。② 音読の工夫について、感想やアドバイスを伝え合っている。④ ○大きな声だけでなく、小さな声も使うことで表現の幅が広がることを指導する。 ○上手な読み方や気持ちを表現している動きについて、教師が褒めたり、児童同士で評価し合ったりできるようにする。
8、2つの班で音読劇の練習を行い、ペア学習をし、感想やアドバイスを伝える。本時 ・友達のアドバイスや読み方を聞き、音読のしかたを工夫し直して練習する。	音読劇の練習を行い、友達のアドバイスから音読の仕方を改善することができる。② ○会話文だけでなく、地の文にも二人の気持ちや場面の様子が表れていることを提示し、読み方の工夫ができるようにする。 ○同じところを選んだ児童同士がペアを組み、感想やアドバイスを伝え合う。 ○聞き手に工夫した部分と理由を伝えてから中間発表をする。
9、前時の録画したビデオを使い、自分達の音読劇を見る。 ・チームごとに発表へ向けて練習をする。	友達のアドバイスから音読の仕方を改善することができる。② ○1年生への発表に向けて、よりよいものを作るように励ます。
10、1年生への発表のリハーサルをする。	
11、音読発表会を行い、感想を伝え合う。 1年生へ	読み方の工夫に気を付けて、グループで協力して音読劇の発表を行っている。②
12、「お手紙」の登場人物に向けて手紙を書き、学習を振り返る。	相手と目的を意識して手紙の形式で描いている。④

<場の設定> 2 の 1 教室



<場の設定> 少人数教室（隣の教室）



8、本時目標 音読劇の練習を行い、友達のアドバイスから音読の仕方を改善することができる。

9、本時展開（8／12）

学習活動と内容	評価規準と指導の手だて（○） 情報・視聴覚機器（☆）
1 本時の課題を確認する。	○これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。
2 学習課題を確認する。	
ペアれんしゅうをして、アドバイスをもらい、音読のしかたをくふうしよう。 3 自分の考えた読み方の工夫に気をつけて、音読劇の練習をする。（中間発表） 少人数教室 2・5班で練習 （交互に発表し、アドバイスをし合う。） 2の1教室 1・4班で練習 3・6班で練習 （交互に発表し、アドバイスをし合う。 アドバイスは学びあいスペースで行う） 自分のめあてをプリントに書き、ペアの児童に明示する。 ・がまくんの落ち込んでいる気持ちが伝わるように、もっと悲しい声で読みたい。 ・かえるくんの様子が分かるように、動きをつけて読みたい。 ・タブレットでアップの練習をしたい。 発表を聞き終わったら、感想やアドバイスをカードに書く。発表者は、もらったアドバイスをもとにペアで練習をする。 ペア練習が終わったら、もう一度班で音読劇をする。 4 自分が改善できたところや頑張ったことをカードに記入する。 5 次時の学習について確認をする。	○前時までに、読み方の工夫を書き込んできたことを確かめ、本時は、それらを中心に音読の練習をすることを確かめる。 ○発表する場に応じて、相手に届く声の大きさを練習するように促す。 ○ペアの児童には、めあてに対してのアドバイスをするように指導する。 ☆児童が描いたイラストを タブレットでテレビに映しだす。アップとルーズを効果的に使えるように支援する。 ○上手な読み方について、教師が褒めて価値づけたり、児童同士で評価し合ったりして、よりよい音読劇を目指していく。 ○同じところを選んだ児童同士がペアを組み、感想やアドバイスを伝え合う。 ☆ビデオで発表を撮影しておき、次時に自分の改善を振り返る。 音読劇の練習を行い、友達のアドバイスから音読の仕方を改善することができる。②